

平成25年第4回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成25年11月28日
大仙市長 栗林次美

平成25年第4回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況についてご報告申し上げます。

始めに、雪対策についてご報告いたします。

今年は、11月11日に初雪となり、本市では昨年と比べ10日早い降雪となりました。また、道路除雪も翌12日、13日には除雪車が初出動し、昨年と比べると26日早い稼働となっております。

この11月11日から13日にかけての降雪により、倒木や停電の被害が発生したほか、園芸用パイプハウス等の倒壊、また、果樹については、収穫期を迎えたりんごを中心に約40aに倒木や枝折れの被害が発生しております。なお、低温により収穫前のりんごに凍害が起きるおそれがあったことから、品質が劣化しないよう収穫に関する指導を行っております。

本格的な冬が到来したかのような降雪でありましたが、市では、昨年度までの3年続けての豪雪などを教訓とし、本年度においても、万全の体制で雪対策に取り組んでいくこととしております。

今冬における道路等の除排雪につきましては、11月1日には除雪出動式を行い、除雪車等の配備を済ませているほか、除雪事業の効率性と透明性を確保するため、新たにGPS機能を活用した除雪情報提供システムの構築に取り組んでおり、プロポーザルを経て決定したシステム構築業者と10月31日に業務委託契約を締結しております。システムの本格稼働は来年度になりますが、本年度は一部試験運用を行う予定であり、運用開始により除雪作業の状況がリアルタイムで把握できることとなります。

高齢者世帯等の雪対策につきましては、道路除雪による自宅玄関前の雪の塊を取り除いたり、臨時作業員による除排雪支援や見回りを行う高齢者等除雪サービス事業を継続するほか、一昨年度から引き続き、町内会等の除雪ボランティアを行う団体に、小型除雪機を貸し出す取り組みなどを行うこととしております。なお、平成18年12月の発足以来、一人暮らしや高齢者世帯等の方々にとっては冬期間の生活の支えとなっている除雪ボランティア「大仙雪まる隊」の出動式が、12月11日に行われる予定であります。

第5回臨時会で予算の補正を承認していただき、6年ぶりの実施となる福祉灯油

事業につきましては、12月上旬からの事業実施に向け作業を進めております。

ゼロ予算事業として実施している「雪下ろし技能講習会」につきましては、大曲仙北職業訓練協会及び大曲仙北建設技能組合連合会との共催により、12月18日に開催の予定であり、多くの市民に参加していただき事故防止に繋がりたいと考えております。

空き家対策につきましては、本年度も引き続き、危険箇所のパトロールや危険度調査を行い、倒壊により住民に危険が及ぶおそれがある場合には、空き家等の適正管理に関する条例に基づき、撤去も含めた対策を講じてまいります。

雪対策につきましては、国では昨年3月、豪雪地帯対策特別措置法を改正したほか、秋田県では豪雪地帯対策基本計画を16年ぶりに変更し、地域支え合い体制の強化などが主要テーマとして付け加えられております。

また、本年度、国では「雪寒指定道路」の指定を21年ぶりに拡大しており、本市では、指定路線の総延長が約455kmから約850kmとなり、87%の増と大幅な拡大となったことから、除排雪、除雪機械の整備などに対する国の支援が大きくなることが期待されております。

本市における中長期的視点に立った総合的な雪対策計画の策定につきましては、10月に1,008人の市民を対象にアンケートを実施したところ、6割を超える方々から回答をいただき現在集計作業を進めておりますが、計画策定のための貴重な基礎データが得られるものと考えております。来年度には計画を策定し、これに基づき雪対策の取り組みをより強化してまいります。

次に、第3回定例会以降における雪によるものを除く主な災害の状況についてご報告いたします。

9月16日の台風18号では、パイプハウス損壊1件及び停電985戸などがありました。10月16日の台風26号での被害の報告はありませんでした。また、11月7日の暴風においては停電381戸などが発生しております。本年はたびたび災害に見舞われておりますが、幸い本市においては、人的被害は確認されておられません。

なお、火災発生時の市民の生命を守ることを目的に実施しております「住宅用火災警報器設置助成事業」につきましては、昨年11月の調査では66.7

%の設置率でありましたが、11月20日現在では70.4%と3.7ポイント上昇しております。今後も、広域消防本部、消防団、各自治会等と連携をとりながら、設置を呼びかけてまいります。

また、本市では、災害時の応援協定を各種団体と締結しておりますが、一般、秋田県トラック協会と「災害時における緊急・救援輸送等の応援に関する協定」を結ぶこととし、12月16日に調印式を予定しております。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況等をご報告させていただきます。

始めに、総務部関係について申し上げます。

本年度の職員採用試験につきましては、各職種合わせて199人の申し込みがあり、第1次・第2次試験の結果、最終合格者を一般行政事務9名、上級土木1名、保健師2名、職務等経験者7名の計19名としております。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験につきましては、各職種合わせて68人の申し込みがあり、採用候補者の登録者数は、上級消防5名、初級消防6名、初級救命1名、初級の職務経験者1名の計13名となっております。

本市としては2回目の発行となる住民参加型市場公募債「だいせん夢未来債」につきましては、10月8日から11日間、購入対象者を市内の居住者又は勤務者及び市内の法人のほか、新たに市出身者も含め購入申し込みの受け付けを行ったところ、発行総額の5億円を大きく上回る、694件、16億4,230万円の申し込みがあったことから、10月29日に抽選会を行い、212件の購入当選者を決定しております。なお、平均申し込み額は236万円、申し込み倍率は3.3倍、抽選の当選率は30.5%となっております。

消防団関係につきましては、10月17日に横浜市消防訓練センターで開催された「第21回全国女性消防操法大会」に、本市女性消防隊が秋田県代表として初めて出場し、出場47隊中26位の成績を収めております。

次に、企画部関係についてであります。

大曲通町地区第一種市街地再開発事業の建設工事につきましては、各棟にお

いて外装仕上工事や内装仕上工事及び設備工事が進められており、病院棟とねむのき駐車場との連絡通路も骨格が見え始めるなど、周辺の道路等も含めて新たな街区の形が見えてきております。

工事の進捗については、現場関係者の努力により昨冬の大雪による工事の遅れは概ね挽回したものの、東日本大震災の影響から作業員の確保が難しい状況となっており、市街地再開発組合から、「北街区の工事完成期日が1カ月程度遅れる可能性があるが、5月の新病院開院には影響はない」との報告を受けております。

また、大曲駅から新病院前を区間とする大曲駅前通り線の歩道無散水融雪設備の整備につきましては、北側の歩道は市街地再開発組合施工分を除いて工事が完了し、今冬から稼働するほか、南側の歩道については、来年度の施工を計画しております。

このほか、県が整備を進めている主要地方道大曲大森羽後線の福住町交差点改良につきましては、9月17日から工事に着手しており、また、新病院側の歩道無散水融雪設備の整備については、設計が終了し、間もなく工事を発注する予定と伺っております。

コミュニティFM開局準備事業につきましては、10月17日に株式会社TMO大曲において臨時株主総会が開催され、コミュニティFMの運営やそれに伴う増資について承認をいただき、正式に運営会社が決定したところであります。

これを受け、市では、大曲商工会議所及び大仙市商工会の会員の方々に機会を捉え、事業の概要をお伝えしているところであり、市内全域の企業、各種団体等の方々と一緒になって、コミュニティFM局を盛り上げていく機運を高め、「オール大仙」による運営体制を整えていきたいと考えております。

また、施設整備については、第3回定例会において予算の補正を承認していただき、10月には、指名型プロポーザルによりコンサルタント業者を選定し、現在、電界調査や全体事業量の積算などを進めております。

非核平和都市宣言事業につきましては、4回目となる「市民平和の集い」を10月30日、大曲市民会館を会場に、約400人の参加のもと開催しております。集いでは、7月に被爆地・広島へ非核平和レポーターとして派遣した大

曲中学校生徒6名による学習報告を行ったほか、秋田大学教育文化学部の外池^{とのいけ}智^{さとし}教授による「秋田から考える戦争と平和」と題した講演、聖霊女子短期大学付属高校生徒によるハンドベルの演奏などを行っております。

また、この集いでは、本年度初めて実施した「平和」をテーマとした標語コンクールの入賞者に対する表彰も行っております。

男女共同参画の推進につきましては、市民への啓発を目的に実施した「男女共同参画に関する写真・メッセージコンクール」に、写真21点、メッセージ225点の応募があり、入賞作品16点を「秋の稔りフェア」で展示したほか、市の広報紙やホームページなどで紹介しております。

また、10月6日、はびねす大仙を会場に、地域の方々から多数参加をしていただき、内閣府の委託事業「男女共同参画の視点を取り入れた『まると防災学習展』」を開催しております。この学習展は、災害時の記録や防災用品の展示、避難所や炊き出しの体験など、女性や高齢者、子育て家庭等に配慮した防災学習を行ったもので、大曲駅東地域の町内会、行政関係部署等との協働による地域連携事業であります。今後も、様々な世代や団体などに働きかけ、あらゆる場面・分野での男女共同参画の実現を目指してまいります。

国際協力の推進につきましては、大仙市国際交流協会と市が共同し、このたびのフィリピン共和国を襲った台風30号により被災された皆さんへの支援活動を行っております。市役所本庁舎、各支所庁舎などに募金箱を設置し12月27日まで募金を受け付けているほか、11月23日には、花火通り商店街で本市在住のフィリピン出身の方とともに街頭募金を実施しており、今後も、大型商業施設などでの街頭募金を計画しております。

携帯電話の不感地帯解消を図る移動通信用鉄塔施設の整備につきましては、西仙北地域大沢郷^{とちがひら}羽ヶ平地区の鉄塔整備が来年1月に完成の予定であり、今次定例会に鉄塔設置にかかる条例の一部改正案を上程しております。

次に、市民部関係についてであります。

夏の節電対策につきましては、昨年に引き続き、6月から9月までを期間とし取り組んでまいりましたが、大仙市の最大使用電力は、震災前の平成22年同期間のピーク時点との比較で23.1%の削減となったほか、市の主要施設

における電気使用量も平成22年同期比21.4%の削減となるなど、市民の皆様からのご協力をいただき目標を達成しております。

また、冬季の節電については、12月から3月まで「無理のない範囲での節電」をお願いすることとしており、継続した節電の取り組みを行うとともに、12月の地球温暖化防止月間には、市民及び事業者を対象にワンデイエコチャレンジを実施し、引き続き温室効果ガスの削減に取り組んでまいります。

公共施設再生可能エネルギー導入事業につきましては、西仙北地域の温泉施設ユメリアの太陽光発電・蓄電池システム及び温泉熱利用ヒートポンプ導入工事については、11月25日に完了しており、12月に竣工行事を予定しております。大曲南中学校と南外中学校の太陽光発電・蓄電池システム導入工事については、12月下旬の完了を予定しております。また、来年度の導入を予定している中学校7校については、実施設計業務を発注しております。

大曲仙北広域市町村圏組合による新火葬場の建設につきましては、11月30日に敷地造成工事が完了する見込みであり、また、実施設計については、設計期間を5月15日から9月末までとしておりましたが、工事費の積算を来年度発注時の実勢価格に近づけるため、12月27日まで延長しております。

秋田県環境保全センターにおける県による岩手県野田村からの不燃物の受け入れにつきましては、4月22日の開始から9月4日の受け入れ一旦終了まで、期間中の受け入れ量は1万2,274tとなっております。また、7月に追加要請のあった不燃物については、9月30日から受け入れを再開し、12月24日の終了、受け入れ量は1万1,800tの予定と伺っております。

なお、県環境保全センターでの放射性物質の測定結果は、基準値を大きく下回る結果となっており、順調に処理が進められております。

ごみの減量化対策につきましては、大仙市の未来を担う子どもたちに、ごみの出し方やリサイクルについて学んでいただく環境学習の一環として、小学4年生を対象とした「子どもごみスクール」を11月に小学校3校で実施し、12月には小学校4校で実施の予定であります。

中仙一般廃棄物最終処分場につきましては、雪による浸出水処理施設外部配管の損傷を防止するため、地下埋設による配管工事を10月24日に発注したところであり、12月上旬の完了を予定しております。今後、本格的な冬を迎

えることから施設の維持管理体制を強化し、雪による施設損傷の防止に努めてまいります。

交通安全対策につきましては、10月24日に仙北地域において第5回交通安全推進集会を開催しております。県警音楽隊や各地域の交通安全関係団体など約360人による交通安全啓発パレードの実施後、仙北ふれあい文化センターを会場に約480人が参加した集会では、横堀小学校器楽部の演奏、落語家の桂三若^{かつらさんじゃく}さんによる講演などを行っております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

放課後児童クラブにつきましては、現在、仙北地域のひまわり児童クラブと大曲小学校区の（仮称）花園児童クラブの建築工事を行っており、予定どおり年内に完成できる見通しであります。ひまわり児童クラブの供用開始時期については1月下旬を予定しておりますが、花園児童クラブは新設のクラブであり、利用者募集の期間が必要となることから、来年4月の開設を予定しております。

また、花館小学校区の放課後児童クラブについては、利用者の増加に対応するため、現在使用している花館小学校クラブ室の拡張工事を行うこととしており、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

なお、平成27年度の施行が見込まれている「子ども・子育て支援法」において、放課後児童クラブの利用対象年齢が、これまでの「小学校3年生まで」から「小学校6年生まで」に拡大されることに伴い、現在、「子ども・子育て支援事業計画」を策定するため実施しているニーズ調査の結果を活用し、実態に即した対応をすべく準備を進めることとしております。

社会福祉法人大曲保育会が市の支援を受けて進めている大曲南保育園移転改築につきましては、本体工事、外構工事ともに11月29日に完了し、年明け1月4日から供用開始の予定であります。なお、竣工行事については、現在の保育園を解体後、3月に予定していると伺っております。

社会福祉法人大仙ふくし会が市の支援を受けて進めている特別養護老人ホーム移転改築につきましては、地中エネルギー熱利用による冷暖房及び消雪設備整備についてはすでに発注済みであり、本体工事についても、間もなく発注の

運びとなっております。

認知症対策につきましては、認知症予備軍の早期発見と早期治療に向け、平成22年度からタッチパネル式パソコンを使用した「物忘れ相談プログラム」を導入し、これを活用した「脳はつらつタッチパネル検査」を実施しております。本年度は、大曲地域の大川西根地区の高齢者を対象に検査を実施し、参加していただいた65人のうち、物忘れが始まっている可能性があるという結果が出た18名については、かかりつけ医又は専門医への相談を勧めております。

また、昨年度に引き続き、市民に認知症に対する理解や関心を深めていただくため、「秋の稔りフェア」に「もの忘れチェック体験コーナー」を開設しており、2日間で147の方が検査を体験しております。

自殺予防対策につきましては、9月15日に、仙北ふれあい文化センターを会場に183人の参加をいただき、「第6回大仙市こころといのちを考えるつどい」を開催しております。つどいでは、「こころ元気研究所」の設立者で「こころ元気配達人」として全国で講演活動を展開している、鎌田敏^{かまたびん}氏による「～心のリフレッシュ術～元気な心で元気な毎日」と題した講演などを行っております。

敬老会につきましては、9月2日の大曲地域大曲地区と西仙北地域大沢郷・強首地区を皮切りに14会場で開催し、4,671人の方々から出席をいただき、それぞれ盛会裡に終了しております。

金婚式につきましては、10月31日に、仙北ふれあい文化センターを会場に開催し、結婚50年を迎えられた68組のご夫婦を祝福しております。

次に、農林商工部関係についてであります。

政府においては、平成30年度から米の生産調整を廃止するほか、来年度から、生産調整に参加した農家に交付している「米の直接支払交付金」の半減と、米価の下落を補てんする「米価変動補てん交付金」の廃止などを決定しております。

昭和45年から続いた米の生産調整が廃止された場合、過剰作付けによる米価の下落や、これまで農村社会を支えてきた小規模農家の切り捨てに繋がり、地域社会が成り立たなくなるのではないかと強く憂慮しております。

国に対しては、ほ場の大規模化や規模拡大に制約がある中山間地域の農家や経営規模の小さい農家に対しても十分な配慮を行うとともに、耕作放棄地の増加、離農や転居による地域コミュニティの崩壊に繋がらないよう、多様な経営形態、地域の特性を十分に考慮した政策の展開を強く要望するほか、市においても、米の生産調整の廃止を見据え、地域農業のあり方を検討していかなければならないと考えております。

なお、12月13日には、大曲市民会館を会場に、美郷町出身で本年7月から東北農政局長に就任されている佐々木康雄氏^{ささきやすお}をお迎えし、「これからの農政の展開方向について」と題して講演会を開催することとしております。TPP交渉参加や米政策の見直しなど、農業・経済情勢が激変する中、今後の農政の新たな中長期ビジョンについてお話をいただけるものと考えております。

6回目となる大仙農業元気賞につきましては、10月29日に関係団体や議員各位をはじめ多数の方々に出席をいただき、本市農業の若き担い手3名を表彰するとともに、さらなる活躍を期待し受賞祝賀会を開催しております。

花館小学校と四ツ屋小学校の児童が育てた大曲花火米につきましては、ブータン国王に贈りたいという児童の夢がかない、10月25日に東京都千代田区のホテルで贈呈式が行われております。贈呈式には、両小学校の児童や、米づくりの指導にあたった「大仙・おぼこ大曲花火米研究会」の代表ら25名が出席し、在東京ブータン王国名誉総領事に献上米32kg分の目録を手渡しております。

全国各地で創意工夫ある地産地消活動を表彰する「平成25年度地産地消優良活動表彰」につきましては、内小友地区の「株式会社ナチュラルスタンスクラブ」が農林水産大臣賞を受賞しております。地元スーパーでのインショップの展開や、養護学校と連携した食育活動などの取り組みが評価されたものであり、11月1日に千代田区で開催された「地産地消推進全国フォーラム」において表彰されております。

また、農山漁村におけるむらづくりの優良事例の表彰を行う「平成25年度豊かなむらづくり全国表彰事業」において、内小友地区の「余目地域活性化対策いきいき会議協議会」が農林水産大臣賞を受賞しております。これまでの長年にわたる活発な地域づくり活動が評価されたものであり、11月13日に仙

台市で開催された東北ブロック表彰式において表彰されたほか、11月23日には、明治神宮での新嘗祭に同協議会が招待を受け参列しております。

このほか、地域農業のリーダーとして模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林水産業者等を表彰する「平成25年度ふるさと秋田農林水産大賞」において、「農事組合法人強首ファーム」が担い手部門の「経営体の部」で農林水産大臣賞及び大賞を受賞するとともに、同部門の「未来を切り拓く新規就農の部」では、仙北地域の佐藤^{さとう}匠^{たくみ}さんが大賞を受賞しております。

サケのふ化放流事業につきましては、現在サケの採捕を行っており、不漁が続いた平成23年度、24年度に比べ、約3倍程度の遡上となっております。

また、県の補助金を活用した飼育池の改修工事、給水設備工事については、10月上旬に完了しており、これにより昨年度から進めてまいりました飼育環境の改良工事が全て完了しております。

各地域の秋まつりイベントにつきましては、10月26日、27日の両日、大曲体育館や市役所駐車場、大曲市民会館などを会場に「大仙市秋の稔りフェア」を開催しております。特産品の直売、商工展示、芸術文化活動の発表、大曲農業高校生による仮装行列などが行われたほか、一昨年から引き続き、復興を支援している宮古市からサンマ1,000匹が提供されたことから、炭火焼きコーナーを設けるなど、多彩な催しを盛り込んだ2日間でありました。台風の影響が心配されましたが、多くの市民に来場いただき、稔りの秋を楽しんでいただけたものと考えております。

また、10月6日に「美山湖フェスティバル」、10月19日、20日の両日に「かみおか地域文化祭」、「全国ジャンボうさぎフェスティバル」、「きょうわ祭」、「仙北公民館まつり」及び「太田の秋まつり」、10月26日、27日の両日に「にしせんぼく文化祭」、11月3日に「なんがい地域祭」を開催しており、それぞれ盛会裡に終了しております。

10月から開催されている秋田デスティネーションキャンペーンにつきましては、県内外からの誘客促進を目的に各種の事業が展開されておりますが、県内市町村が単独で行うイベントとしては初めてとなるPRイベント「秋田県大仙市ふるさとフェア2013」を、11月23日、東京のJR有楽町駅前広場と東京交通会館を会場に開催したところであります。

このイベントは、各首都圏ふるさと会の皆様や市観光物産協会、J A秋田おばこなど関係機関のご協力をいただき、民謡、踊り、郷土料理をはじめ、物産品の販売や、秋田県や大仙市にゆかりのあるタレントによるパフォーマンスなど、大仙市を首都圏でPRする一大イベントとなりました。

当日は好天に恵まれ、各ふるさと会会員の皆様をはじめ、一般のお客様にも多数来場していただき、大好評のうちに終了することができました。

このほか、秋田デスティネーションキャンペーンのオープニングイベントとして「大曲エキまつり」を10月5日、6日の両日、大曲駅前広場などを会場に、大曲駅と市の共催事業として実施したところ、2日間で約7,700人の方々に楽しんでいただいております。

また、JR東日本秋田支社が企画した10月12日から14日までのSL運行については、秋田・横手間で1日1往復運行され、羽後境、刈和野、神宮寺の各駅では地元特産品の販売や郷土芸能の披露、大曲駅ではゆるキャラによる歓迎、玉川橋付近では昼花火の打ち上げが行われ、SLの乗客からは、花火の街として本市を満喫したとの声をいただいております。

旧池田氏庭園の秋の一般公開については、観光や地域振興を目的に、10月19日から11月10日までの23日間を公開期間として実施いたしました。天候に恵まれたことや旅行の団体ツアーが多かったことから、期間中約1万4,000人の方々に美しく色づいた庭園をご覧いただいております。

なお、旧池田氏庭園の駐車場に建設を進めておりました庭園案内所が9月末に完成し、愛称を「^{おおしまかん}巨洲館」として10月19日に開館式を行い、庭園を訪れる方々の利便性の向上を図っております。

また、秋田デスティネーションキャンペーンの特別企画として、11月8日、9日の両日実施した払田分家庭園ライトアップ事業「^{しゅうや}秋夜のドリームファンタジー」についても、大勢の方々が本家庭園を観賞後、分家庭園で幻想的な景色を満喫されております。

11月23日に花火通り商店街で開催された「秋田ワインカーニバル&納豆サミット」については、秋田県産を含む各種国産ワインや輸入ワイン、地酒の飲み比べ、市内各店の「大曲納豆汁」の食べ比べなど、大勢の参加者に堪能いただき、盛会裡に終了しております。

第1回「大仙市特産品開発コンクール」につきましては、市内の企業、組合、各種団体等から12点の応募があり、審査員が消費者ニーズ、デザイン、技術・品質等を総合的に審査し、入賞5作品を市の特産品として認定したところであります。入賞作品は、県内外で開催するイベント等で広くPRに努めるほか、販路拡大のための活動支援等を行うこととしております。

プレミアム付き共通チケット発行事業につきましては、大曲商工会議所及び大仙市商工会で構成する事業協議会が、プレミアム分を含んだ発行総額5億5,000万円の「大仙市ニコニコ商品券」を7月14日から販売したところ、市民の皆様の関心も高く10月17日までに完売しております。

来年3月高校卒業予定者の就職状況につきましては、ハローワーク大曲の集計では、10月末現在で、就職希望者は昨年より6人多い387人、このうち内定者は289人、就職内定率は74.7%と昨年同期との比較で10.6ポイント増加しております。各高校からは、引き続き未内定者に対する進路指導を積極的に行っていくと伺っております。

また、本市とハローワーク大曲、県仙北地域振興局、仙北市及び美郷町で構成する仙北地域雇用促進連絡会議が、10月17日に新規高卒者就職面接会を開催しており、参加31事業所が、市内の高校を含む12校54人の生徒と面接を行い、11月25日現在16名が採用の内定を受けております。

なお、さらなる地域雇用を掘り起こすため、2月上旬に一般求職者と新規卒業者を対象とする就職面接会を開催いたします。今後も、各高校や関係機関と連携し求職者の早期就労に結びつけたいと考えております。

企業対策につきましては、11月19日、6回目となる「大仙市首都圏企業懇話会」を開催し、本市出身の企業関係者や進出済み企業の本社などから27名、そのほか、ふるさと会、市内商工団体、市議会議員の方々にも参加いただき、本市出身で東北福祉大学ゴルフ部の監督を務め、同ゴルフ部を常勝軍団へと導いた阿部靖彦^{あべやすひこ}氏の講演のほか、参加企業の現状などについて情報交換を行っております。

第51回技能五輪全国大会につきましては、11月22日から4日間、千葉県幕張メッセで開催され、建築大工部門の秋田県代表として本市から中仙地域の渡部直人^{わたなべなおと}さんが出場しております。この大会は出場資格が23歳以下で、

本市は3年連続で県代表選手を輩出しております。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画道路中通線の整備につきましては、JRアンダーパス部分から市道四ツ屋大曲線に接続する区間の整備が10月に完了したことから、10月19日に、事業関係者のほか、地域住民や地元商店街の方々から参加をいただき、開通式典を行い供用を開始しております。

都市計画道路駅東線までの中通線街路整備事業につきましては、本年度の補償関係の契約は完了しており、残る3名の権利者とは来年度に補償契約を締結し、工事に着手する予定であります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業につきましては、区画道路の新設工事については12路線全て発注済みであり、水路新設工事及び街区整地工事については12月中の発注を予定しております。建物移転については、本年度予定の24戸のうち23戸が契約済みであり、残る権利者と交渉を進めております。

道路整備事業につきましては、社会資本整備総合交付金事業の南外1号線については、3工区のうち1工区が完了しており、残り2工区も12月末、3月末の完了に向けて工事を進めております。

また、市単独事業である各地域28カ所の道路工事については、12カ所が完了し、14カ所は発注済みであり、残る2カ所についても間もなく発注予定となっております。

住宅リフォーム支援事業につきましては、10月末現在の実績が申請件数355件、補助金額にして5,558万円となっているほか、対象事業の総工事費が9億3,246万円に上り、市民の関心も高く昨年度並みの申請状況であることから、住環境の向上、経済対策としても十分な効果があると考えており、昨年度の実績を踏まえ、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、国、県関係事業についてであります。

雄物川中流部の河川改修事業につきましては、西仙北地域強首地区では築堤等工事を、寺館大巻地区では築堤等工事と二ツ橋樋門工事を、南外地域西板戸

地区では築堤及び護岸工事を、協和地域中村芦沢地区では築堤等工事及び芦沢樋門工事をそれぞれ実施していただいております、また、強首地区及び協和地域岩瀬湯ノ沢地区について樋管設計等を実施中と伺っております。

雄物川中流部改修事業については、本年度、繰越事業費等を含めて多額の国予算を計上していただいております、河川改修がこれまでになくスピードアップして行われていると感じております。

なお、神岡地域や西仙北地域の地元自治会や協議会では、河川改修の整備促進について一層の推進を求め、9月から11月にかけて東北地方整備局及び国土交通本省等への要望活動を行っております。

本年度から本格的な改良工事に着手している主要地方道神岡南外東由利線の南外地域下袋バイパスにつきましては、12月末には湯ノ又地区のミニバイパス区間、延長約400mが開通する予定と伺っております。

歩道整備事業につきましては、国道105号大曲地域四ツ屋地区の本年度分の整備が10月で完了し、主要地方道角館六郷線の太田地域伊勢堂地区については、用地補償が進められていると伺っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

大花町と大曲丸子町を結ぶ昭代橋に布設の上水道配水管で発生した漏水につきましては、大曲地域で最大口径の配水管であるため、修繕に伴う大規模な水道水の濁りの発生が懸念されましたが、9月29日から翌未明にかけての修理業者による迅速な作業の結果、濁りを最小限に抑えることができております。

上水道事業にかかる工事につきましては、大曲通町地内の消火栓移設工事及び飯田字家ノ前地内、大花町地内、大曲花園町地内の配水管改良工事については、11月上旬までに完了しております。

また、大曲西根字鳥居地内の増圧ポンプ増設工事については発注を終えており、12月下旬の完了予定となっております。

県の大曲橋架け替え事業に伴う雄物川左岸の配水管連絡工事、既存取水施設撤去に伴う護岸復旧工事については、10月下旬までに完了しております。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事については、最後の工事1件について12月上旬までの発注を予定しております。

簡易水道事業につきましては、第3回定例会で予算の補正を承認していただいた神岡地域神宮寺地区簡易水道から大曲仙北広域市町村圏組合が建設する新火葬場までの配水管延長工事について、10月上旬に発注を終え、年度末の完了を予定しております。

公共下水道事業につきましては、大曲、南外地域において補助・単独合わせて9月に7件、10月に2件の管渠工事を追加発注しております。全体の発注件数は25件となり、このうち13件が完了しております。

次に、教育委員会関係についてであります。

子どもたちの学力の状況につきましては、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、8月28日に文部科学省から発表され、本市でもすでに資料等で報告しておりますが、小・中学校ともに良好な状況が維持されており、子どもたちの頑張りはもとより、家庭や地域が学校と一体となって子どもたちの生活や学習の環境整備に取り組んでいる成果であると捉えております。

防災教育につきましては、本年度、新規事業として展開している「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」の中核をなす避難所開設に関わる訓練を、9月17日、18日の両日、平和中学校を会場に実施しております。地域自主防災組織や地域住民のご協力をいただき、警察、消防等関係機関との連携により、中学生サミットのメンバーなども含め約300人が参加しております。

さらに、平和中学校の取り組みをモデルとして、10月18日には神岡小学校が、10月31日には大曲中学校が地域住民や関係機関と連携して避難所開設に関わる訓練を実施しております。

このように、モデル的な取り組みの成果と課題が市内の全小・中学校に共有され、今後ますます充実した訓練と防災教育が展開されることを期待しております。

また、防災教育の深まりを支える被災地との交流活動につきましては、9月から10月にかけて、大曲、平和、中仙、南外、太田の各中学校が、地域の協力などのもとにそれぞれ特色ある活動を展開しております。

昨年度から実施している「はいさい・めんそーれ糸満・大仙子ども交流事業」につきましては、10月21日から25日まで、西仙北小・中学校等にお

いて実施しております。これは、沖縄県糸満市教育委員会が児童生徒及び教職員等52名を本市に派遣し、普段どおりの学校生活の中で授業を受ける「学びの体験事業」を実施したいとの依頼を受けたものであります。

また、教員の人事交流を縁に、平成22年度から続けております沖縄県南城市からの教育関係者の視察については、5月と10月の2回にわたり総勢21名が、本市の幼・小・中学校を訪れ交流を行っております。

子どもたちの夢の実現意欲を育む、こころのプロジェクト「夢の教室」につきましては、本年度最後の教室を、11月6日、7日の両日、7小学校の4、5、6年生を対象に、チェリストの羽川真介^{はがわしんすけ}氏を講師に迎えて開催しております。

学習指導の充実のための取り組みにつきましては、各学校が公開研究会を開催し、全国からの参加者を得て取り組みの成果を発信することにより、教員の研修の充実を図っております。

11月14日には、西仙北小学校と西仙北中学校が、文部科学省の研究指定を受けて取り組んだ学力向上にかかる研究実践を、11月21日には、大曲中学校が他の協力校とともに取り組んだ、同じく文部科学省研究指定の英語授業改善にかかる研究実践を公開し、同省の教科調査官等から指導助言及び講話をいただいております。

さらに、明日11月29日には、第45回全国小中学校環境教育研究大会秋田大会として、藤木小学校、角間川小学校、大曲南中学校が授業を公開し、大曲市民会館で全体会を行う予定であります。文部科学省、環境省、国土交通省、秋田県教育委員会などから指導をいただける稀有な研究会で、本市の関係各校の環境教育への取り組みが一層充実するよう期待しております。

なお、県外からの教育行政視察希望は、11月22日現在、予定も含め57団体300名と昨年度に次ぐ数となっており、さらに、公開研究会への県外からの参加者は72名であります。市としては全国各地の教育事情を学ぶことができ、本市の取り組みを見直す貴重な機会となっていると考えております。

P T A活動につきましては、9月9日に大仙市P T A連合会第13回研修会が開催され、秋田ノーザンハピネッツ テクニカル・ディレクターの長谷川誠^{はせがわまこと}氏を講師に迎え、「バスケットを通して見えた世界」と題しての講演をいただいたほか、11月25日の第14回研修会では、地域や小・中学校との連携に

取り組んでいる太田南小学校の研修視察を行っております。

学校給食センターの食中毒の再発防止につきましては、衛生管理の見直しと改善を図っておりますが、食品の安全性を確保する衛生管理の手法の一つであるHACCP（ハサップ）の導入については、9月に秋田県版HACCP導入作業部会を設置し、衛生管理マニュアルの再点検を行っております。

これまで、他県での学校給食センターへのHACCP導入について研修を実施するなどしてまいりましたが、12月には大仙保健所から認証に向けた具体的な指導をいただき、年明けには県への申請を予定しております。

なお、10月からノロウイルスの流行期に入っておりますが、学校給食センター従事全職員の毎月の定期検査、日々の健康調査を強化し、感染防止に努めてまいります。

生涯学習の推進につきましては、10月6日に、プロ棋士を招いて「子ども囲碁大会」を開催し、参加した50人の子どもたちには、成績によりそれぞれ級位の認定状が日本棋院から交付されております。

西仙北地域で開催された東北将棋大会につきましては、11月9日、10日の学生大会に東北の7大学から51人、11月10日の市長杯争奪戦の各部門に県内外から94人が参加し、それぞれ熱戦が繰り広げられたところであります。

芸術文化関係につきましては、大曲交流センターを会場に、10月28日、29日に「大曲地域芸能発表」と「創作展」、11月9日、10日は芸能発表を中心とした「大仙市芸術祭」が開催され、市内の芸術文化協会会員同士の交流を図ったほか、多くの市民の方々に鑑賞いただいております。

また、10月5日の市民短歌大会には、一般から76首が寄せられたほか、11月8日には市民俳句大会を開催し、俳句大会では市内の中学生にも投句を呼びかけたところ、大曲、南外、太田の各中学校生徒から過去最高となる昨年の3倍近い176句が寄せられ、一般の174句と合わせて350の投句をいただいております。

このほか、サンクエスト大曲では、10月5日、6日に作品展示やバザー、サークル発表会を行い、はびねす大仙でも、11月3日に芸能発表、作品展示、書道パフォーマンスを行っております。また、ペアーレ大仙では、11月

2日、3日に大曲交流センターでの作品展示、11月17日には大曲市民会館での舞台発表を行っております。

5月12日から市内8カ所で開催した出前民謡「ふるさと民謡めぐり」については、11月16日の中仙地域での開催をもって全日程が終了し、延べ1,700人を超える市民の方々にお楽しみいただいております。

来年、秋田県を会場に開催される第29回国民文化祭につきましては、大仙市実行委員会第2回総会を10月18日に旧池田氏庭園で開催し、市主催の「旧池田氏庭園秋の園遊会」、「囲碁サミット」、「秋田の美×写真の力」の3事業について、それぞれの企画委員会から実施計画の詳細が報告されております。

文化財保護につきましては、昭和52年まで大曲地域の蛭川渡船場で使用され、花館と蛭川の地域の歴史を築いてきた平底の川舟としては東北最大級の「蛭川渡船場の渡しぶね」を、9月25日付けで市有形民俗文化財に新たに指定しております。

また、来年2月から3月までの1カ月間、新県立美術館で開催される秋田県・甘粛省友好提携30周年記念文化交流展に、県指定文化財の鈴木空如筆法隆寺金堂壁画模写や、国宝線刻千手観音等鏡像が展示される予定となっております。

スポーツ振興につきましては、第35回全県500歳野球大会が、9月28日から10月2日までの5日間、神岡野球場を主会場に市内8地域18会場で開催され、全県各地から過去最多となる179チームが参加し熱戦が繰り広げられたところであります。

なお、決勝戦の様子は、NHK秋田放送局のラジオ放送で実況中継されたほか、民間放送テレビ局のクイズ番組に特色ある大会として取り上げられております。

市内各スキー場のオープンについては、大台スキー場と協和スキー場が12月21日、大曲ファミリースキー場が23日を予定しており、本年度も児童生徒が雪国のスポーツを通して体力づくりが行えるよう、市内の小学生、中学1、2年生及び養護学校生を対象に、無料のリフトシーズン券を配布することとしております。

最後に、平成26年度当初予算編成について申し上げます。

来年度は、現在進められている大曲通町地区第一種市街地再開発事業について、現在の仙北組合総合病院の解体工事をはじめとする南街区の整備に着手するほか、西部学校給食センター建設事業、大曲仙北広域市町村圏組合が事業主体の中央斎場改築事業及び社会福祉法人大仙ふくし会による特別養護老人ホーム峰山荘改築事業への支援など、大型の建設事業が予定されていることから、一般会計における平成26年度当初予算額は、現時点で本年度と同規模の470億円前後になるものと見込んでおります。

一方、合併特例期間も来年度が最終年度となり、平成27年度以降に普通交付税等の大幅な削減が予定されていることから、一層の行財政改革を進めていかなければならないものと考えております。

これまでの各年度における行財政改革の取り組みにより、公債費については、公債費負担適正化計画を踏まえた市債発行額の抑制により償還額が年々減少しているほか、職員人件費についても、定員適正化計画に沿った職員数の適正化により減少しております。

来年度においても、行財政改革の取り組みを引き続き進めながら、限られた財源をより有効に活用し、市民ニーズや社会情勢を的確に反映させた予算を構築するよう編成作業を進めてまいります。

なお、予算編成の重点ポイントとして、「市民や時代のニーズを踏まえた事業の最適化及び再構築」、「市の発展・成熟期に向けての選択と集中による施策の推進」、「将来都市像を見据えた財政健全化への取り組みと財源確保」、「市単独補助金・公共施設の抜本的な見直し」、「部局間の連携と職員のさらなる意識改革」の5項目を定め、これに従った編成作業に取り組んでまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。まして、市政報告とさせていただきます。